

雇用保険二事業に関する懇談会議事要旨

日 時：令和4年11月1日（火）15：30～17：30

場 所：オンライン開催（オンライン会場：厚生労働省12階職業安定局第1会議室）

出席者：新田秀司氏（日本経済団体連合会）、大谷武士氏（全国中小企業団体中央会）、木村恵利子氏（全国中小企業団体中央会）、坂田甲一氏（トッパン・フォームズ株式会社）、大下英和氏（日本商工会議所）

議 題：雇用保険二事業に係る令和5年度概算要求について

議事内容：①事務局より、資料に基づき説明。

②その後、出席者より主に以下のような発言があった。

【主な発言】

- ウィズコロナの状況を踏まえると、今後は人手不足産業への円滑な労働移動に重点を置く必要がある。人材育成、とりわけITスキルの習得については、職業訓練のカリキュラムの充実等により、一層の促進をお願いしたい。
- 経済対策で示された、賃上げの支援、人材育成、労働移動支援等を通じて多様な働き方と賃金上昇のサイクルを促していくという政策の方向性には賛同。二事業会計も大変厳しい中で、政策効果を考えながら、有効に予算を使っていただきたい。
- 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構の交付金・補助金については、今回大きく増額しているため、注視していく必要がある。実際の執行状況や目標の達成状況、活用状況等について、今後報告いただきたい。
- 新設される産業雇用安定助成金のスキルアップ支援コースについて、中小企業ではOJT、Off-JTが中心であり、職場を離れて他社でスキルを習得させようという発想ができる場所は少ない。人材や業務に余裕がある企業に限らず、中小企業が使いやすいコースとなるようにしていただきたい。
- 人材確保等支援助成金の外国人労働者就労環境整備助成コースについて、水際対策は今後制限が緩和され、中小企業の外国人材に対する期待は高いことから、支援の継続強化をお願いしたい。
- 「民間等を活用した効果的な職業訓練と就職支援の推進」において半導体関連学科の新設があり、こういった新たな取組は大いに期待したい。GX、DXなどの産業振興策と、それを支える人材開発、能力開発が一体となって進むことが重要である。
- それぞれの事業がしっかりと中小企業に届くように、施策の周知・普及をお願いしたい。
- 雇用保険二事業関係の収支状況は非常に厳しく、今後雇用に関して大きな状況変化があった場合、持ちこたえられるのかという危機感を抱いている。ただし、こうした状況であっても、雇用保険二事業において必要な事業は実施していかなければならない。
- 人への投資として、学び直し、リスキリング等に政府も力を入れていくということなので、ジョブ・カード制度の一層の普及・推進にぜひ力点を置いて取り組んでいただきたい。